

癒し・身体のケア・美容をコンセプトに治療院を開業。 病気になる身体づくりをめざす

日々の生活に取り入れる 養生法をアドバイス

自分と同じ世代のママたちを元気にしてあげられる、そんな場所をつくりたい。そんな思いで立ち上げたこの治療院も、開業してちょうど6年が過ぎました。治療を通して、お灸や食事、体質に合わせたアドバイスをさせていただき、日常生活の過ごし方も含めたサポートをするのが私のスタイル。病気の治療はもちろんですが、病気になる、なりにくい身体をつくるのが大切です。養生も美容も毎日の生活の積み重ねですから、生活の見直しと鍼灸による体質改善で、本来もっている自然治癒力を底上げる治療をめざしています。長く通っていただいている方も多く、患者さんのプライベートなお話を聞くことも増え、関係性や信頼が深まっているのを実感する日々です。



▲体質に合わせてアドバイス

患者さんのお話が治療の ヒントに。 問診の大切さを実感

あるとき治療させていただいたのは、耳鼻科や脳神経外科を受診しても、一向に症状が改善されずにいた、めまいに悩む患者さん。問診を通して、極度の冷えとストレスがあることがわかりました。定期的に鍼灸治療を行い、ご自宅でも身体を冷やさないようにご過すようアドバイスしました。そのうち、めまいが強く

出るときは必ず足もとが冷えていて、温めると症状がラクになると、ご自身でも気付いたそうです。「何をしても改善しないと諦めていた矢先、鍼灸治療で希望がもてました」と喜んでいただいたことは本当に嬉しかったです。患者さんのお話の中に沢山のヒントがあり、改めて問診と東洋医学的診断の大切さを実感しました。



▲顔診など東洋医学的診断を重視

仲間にも恵まれた学生生活。 鍼灸の魅力をもっと広めていきたい

鍼灸は、仕事としてはもちろん、自分や周囲の大切な人たちのために役立つ知識です。開業してからも手元には教科書を置いて常に見返していますし、治療のベースになっている「五行論」については自作のノートを使って患者さんに説明しています。この学校は、30代半ばで自分のやりたいことを勉強する私にとって、同じ目標をもつ仲間にも恵まれた環境でした。臨床の現場で活躍している先生の話などすべてが新鮮で、サークル活動も楽しく参加していたので、人一倍、学生生活を満喫。また、学校を卒業してから治療院を開業するまでの間も、卒後研修として週2回、附属鍼灸臨床実習センターで勉強させてもらいました。そこで年代や性別を問わず多くの患者さんの身体や症状を診ることができたのも貴重な経験だったと思います。ベテランの先生や同期の



▲リラックスできる空間づくりを心がけている

友人たちに相談して試行錯誤しながら、自分の治療の基本的な流れを組み立てたのはいい思い出ですし、今の私の治療はそれをベースにしたものです。また、学生時代に夏期治療院研修でお世話になった先生のもとを訪れ、開業について相談にのっていただいたこともありました。実際の患者さんとの接し方や手順などさまざまなアドバイスをいただけて、本当にありがたかったです。

現在は、自分の治療技術の向上はもちろんですが、鍼灸の魅力や鍼灸師という職業をもっと世の中に広めていけるように活動の幅をひろげています。5年前から私の治療院にも、小学生が職業体験に来てくれるようになりました。これからますます、鍼灸師が沢山の方から必要としてもらえるよう、頑張っていきたいと思っています。



▲はりきゅう・アロマのまーめいどの森の院内